

<b>社会科学の基礎 A</b>		<b>講義</b>	<b>教授 丸山 高行</b>
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネス学科の教養選択科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>22200107</b>

### 1. 授業のねらい・概要

この科目は、極めて広い学問領域である「社会科学」について、エッセンスを効率よく学ぶことを目標とする。特に、学生諸君が将来、立派な社会人として世界各国で活躍できるように、社会科学関係の情報をキャッチする「アンテナ」の精度・感度を高める。同時に、入手した情報を適切に理解するための基礎知識の修得を目指す。まず社会科学の基礎 A では、日本の政治・法律・経済といった基本分野に焦点を当てる。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメや配布資料等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、その日の授業で学習した内容に関する課題として3問程度練習問題を提示し、授業内容の理解を進める。教室での受講に加えて、この課題の期限内提出をもって授業への出席とカウントする。

### 3. 授業計画

1. インTRODクシヨン	9. リスクとリターン, 分散投資
2. 戦後から現代までの日本の政治	10. 株式投資理論の基礎
3. 日本の統治システムの特徴 (特に天皇の地位と機能)	11. 景気を判断する資料の見方
4. 日本の統治システムの特徴 (特に内閣と三権分立)	12. 為替レートと景気・株価との関係
5. 大日本帝国憲法と天皇制	13. 債券投資理論の基礎 (債券の特徴と種類)
6. 日本国憲法の重要条文	14. 短期金利と長期金利の関係
7. 自由民権運動と議会制民主主義	15. 全体のまとめ (社会科学の基礎 B へ向けての準備)
8. 経済について詳しくなるコツ (金融リテラシーの重要性)	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される (社会科学の基礎 A 全体で180枚)。スライド12枚は、基本的に毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、図表の出典および関連する資料や参考文献へのリンクが貼り付けられている。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理することによって、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。なお、前年度のレジュメを授業スタート時に Google Classroom で公開するので、適宜、予習に役立ててほしい。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、基本的に翌週の授業で解説を加える。期末試験は、課題 (4問程度) にレポートの提出を加える形で行う。期末試験については、終了後、解説動画を配信するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

### 6. 授業における学修の到達目標

社会科学のうち、特に政治・法律・経済関係の基礎知識が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の政治の動きや企業活動、株式・債券市場の動向、さらには金利・為替市場の状況など、特にビジネスと密接に関連する話題を積極的に取り上げていくので、社会科学の諸分野について、より深く勉強しようという意欲が高まることを期待する。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢 (20%) および定期試験の結果 (80%) によって、評価する。

## 8. テキスト・参考文献

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

## 9. 受講上の留意事項

社会科学の基礎Aと社会科学の基礎Bは関連性が深いので、セットで受講することが望ましい。また、社会科学の基礎Aと社会科学の基礎Bで学んだ経済・金融関係の諸知識は、経済・経営関係の様々な授業、特にコーポレートファイナンス論や証券投資論の理解につながって行くので、本科目の受講によって基本を着実に身に付けてほしい。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。